



安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町4-3-8
担当
TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡 同上
改訂日 2023/04/19
SDS整理番号 15060250

製品等のコード : 1506-0250、1506-0260、1506-0280、1507-4280、1506-0270、1506-0290

製品等の名称 : オレイン酸

推奨用途 : 試薬

参考：その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)
溶剤、洗浄剤、安定剤、酸化・老化防止剤、潤滑油添加剤、インキ原料、
界面活性剤原料、油剤 など

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性
引火性液体 : 区分に該当しない
自然発火性液体 : 区分に該当しない

健康に対する有害性
急性毒性(経口) : 区分に該当しない
急性毒性(経皮) : 区分に該当しない
皮膚刺激性/刺激性 : 区分に該当しない
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分に該当しない

シンボル、絵表示 : 該当なし

注意喚起語 : 該当なし

危険有害性情報 : 該当なし

注意書き

【安全対策】
保護眼鏡、保護手袋、保護衣、呼吸用保護具を着用すること。

【応急措置】

該当なし

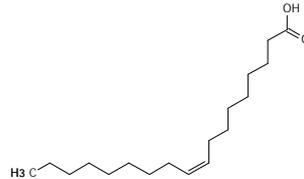
【保管】

日光を避け、容器を密閉し冷暗所に施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。



3. 組成及び成分情報

| | |
|--------------------|---|
| 化学物質・混合物の区別 化学名 | : 化学物質 オレイン酸 (別名) cis-9-オクタデセン酸、9-オクタデセン酸、 (9Z)-9-オクタデセン酸、(Z)-9-オクタデセン酸 (英名) Oleic acid(EC名称)、cis-9-Octadecenoic acid、 9-Octadecenoic acid、 (9Z)-9-Octadecenoic acid、(Z)-9-Octadecenoic acid、 9-Octadecenoic acid (9Z)- (TSCA名称) |
| 成分及び含有量 | : オレイン酸、----- 不飽和脂肪酸の1種。 |
| 化学式、構造式 | : $\text{CH}_3(\text{CH}_2)_7\text{CH}=\text{CH}(\text{CH}_2)_7\text{COOH}$ 、C ₁₈ H ₃₄ O ₂ 、 構造式は上図参照(1ページ目)。 |
| 分子量 | : 282.47 |
| 官報公示整理番号 | : (2)-609、(2)-975 |
| 化審法 安衛法 | : 公表化学物質(化審法番号を準用) |
| CAS No. | : 112-80-1 |
| EC No. | : 204-007-1 |
| 危険有害成分 | : オレイン酸 |

4. 応急措置

| | |
|-------------------|---|
| 吸入した場合 | : 呼吸が困難になった時は、新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の治療を受ける。 |
| 皮膚に付着した場合 | : 皮膚を多量の水と石鹸で洗う。 皮膚刺激などが生じた時は、医師の手当を受ける。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。 |
| 目に入った場合 | : 直ちに水で15分以上注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。 眼刺激が持続する時は、医師の治療を受ける。 |
| 飲み込んだ場合 | : 口をすすぎ、うがいをする。 コップ数杯の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。 気分が悪い時は、医師の手当を受ける。 |
| 予想される急性症状及び遅発性症状: | 情報なし |

5. 火災時の措置

| | |
|-------------|--|
| 適切な消火剤 | : 本製品は可燃性である。 粉末消火剤、泡消火剤、水噴霧、二酸化炭素、乾燥砂 |
| 使ってはならない消火剤 | : 大火災の場合、空気を遮断できる泡消火剤が有効である。 棒状放水(本品があふれ出し、火災を拡大したり、環境汚染を引き起こすおそれがある。) |
| 特有の危険有害性 | : 火災中に熱分解し、刺激性又は毒性のガスを発生する可能性がある。 加熱により容器が爆発することがある。 |
| 特有の消火方法 | : 消火水は環境汚染を引き起こすおそれがある。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。 |
| 消火を行う者の保護 | : 有毒ガス等の接触を避けるため、消火作業の際は風上から行い、 空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。 |

6. 漏出時の措置

| | |
|-----------------------|---|
| 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 | : 漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。 皮膚、眼などの身体とのあらゆる接触を避ける。 風上から作業し、ミスト、蒸気、ガスなどを吸入しない。 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。 |
| 環境に対する注意事項 | : 河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。 油又は有害液体物質による海洋の汚染の防止のため、海上で薬剤を使用する場合は、国土交通省令・環境省令の規定に適合すること。 環境への排出を避けること。 |
| 回収、中和 | : 裸火禁止。 少量の場合、ウエス、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。 少量の場合、吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用 |

- いる。
- 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材 : 危険でなければ漏れを止める。
- 二次災害の防止策 : 事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策 : 裸火禁止。
引火点(195)以上で使用する場合は、工程の密閉化および防爆型換気装置を使用する。
ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。
指定数量以上の量を取扱う場合、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行なう。
指定数量以上の危険物を貯蔵し、取り扱う場合は消防法に基づく許可が必要で、危険物貯蔵所に保管する。
指定数量の1/5以上、1未満（少量危険物）の場合も、少量危険物貯蔵所に保管し、法の規制を受け、最寄の消防署に届出を行う必要がある。
指定数量の1/5未満の危険物の貯蔵・取り扱いについては届出の必要はない。
- 局所排気・全体換気 : 炎、火花または高温体との接触を避ける。
安全取扱い注意事項 : 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。
換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。
周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
取扱い後はよく手を洗う。
液の漏洩及び蒸気の発散を極力防止する。
- 接触回避 : 炎、火花または高温体との接触を避ける。
- 保管
- 技術的対策 : 保管場所は壁、柱、床等を耐火構造とする。
保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けない。
保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設ける。
保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。
- 保管条件 : 光のはく露や高温多湿を避けて保管する。
容器を密閉して冷暗所に保管する。
必要に応じ施錠して保管する。
貯蔵する所には、「火気厳禁」の表示を行う。
- 混触危険物質 : 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
- 容器包装材料 : 強酸化剤（硝酸塩、塩素酸塩、過酸化物、過塩素酸塩など）
ガラスなど

<参考> 容器包装材料の耐薬品性（あくまでも目安、保証不可、実用試験確認必要）

【 :良好 :やや良好(条件による) :やや不良 x:不良 -:データなし 】

・試験温度：室温（RT）

スチレンゴム× クロロブレンゴム(ネオプレン) ニトリルゴム ブチルゴム×
天然ゴム× シリコーンゴム× フッ素ゴム(バイトン、ダイエル) テフロン
軟鋼 ステンレス(SUS304 SUS316) チタン アルミニウム 銅
軟質塩ビ 硬質塩ビ ポリスチレン-ABS ポリエチレン ポリプロピレン
ナイロン アセタール樹脂 アクリル樹脂× ポリカーボネート ガラス

・試験温度：65

スチレンゴム× クロロブレンゴム(ネオプレン)× ニトリルゴム ブチルゴム×
天然ゴム× シリコーンゴム× フッ素ゴム(バイトン、ダイエル) テフロン
軟鋼 ステンレス(SUS304 SUS316) チタン アルミニウム 銅

8. ばく露防止及び保護措置

- 管理濃度 : 設定されていない。
- 許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）:

| | |
|--------------|---|
| 日本産衛学会 ACGIH | 設定されていない。 |
| 設備対策 | ： 設定されていない。 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。 取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。 |
| 保護具 | |
| 呼吸器の保護具 | ： 呼吸器保護具（防じんマスクなど）を着用する。 |
| 手の保護具 | ： 保護手袋（ニトリル製など）を着用する。 |
| 眼の保護具 | ： 眼の保護具（保護眼鏡、側板付き保護眼鏡）を着用する。 |
| 皮膚及び身体の保護具 | ： 長袖作業衣を着用する。 必要に応じて顔面用の保護具、保護長靴を着用する。 |
| 衛生対策 | ： この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。 汚染された作業衣は作業場から出さない。 |

9. 物理的及び化学的性質

| | |
|----------------|--|
| 物理状態 | |
| 性状 | ： 液体 |
| 色 | ： 淡黄色 |
| 臭い | ： わずかな特異臭 |
| pH | ： データなし |
| 融点 | ： データなし |
| 凝固点 | ： 10 以下 |
| 沸点 | ： 286 |
| 引火点 | ： 195 |
| 可燃性 | ： 可燃性 |
| 爆発範囲 | ： データなし |
| 蒸気圧 | ： データなし |
| 相対ガス密度（空気 = 1） | ： データなし |
| 密度又は相対密度 | ： 約0.88 |
| 比重 | ： データなし |
| 溶解度 | ： 水にほとんど溶けない。 エタノール、アセトン、トルエン、ベンゼンに溶ける。 |
| オクタノール/水分分配係数 | ： データなし |
| 発火点 | ： データなし |
| 分解温度 | ： データなし |
| 粘度 | ： データなし |
| 動粘度 | ： データなし |
| 粒子特性 | ： データなし |
| GHS分類 | |
| 引火性液体 | ： 引火点195 は93 超であることから、区分に該当しないとした。 |
| 自然発火性液体 | ： 常温の空気と接触しても自然発火しないことから、区分に該当しないとした。 |

10. 安定性及び反応性

| | |
|-----------------|--|
| 安定性（反応性・化学的安定性） | ： 通常の取扱条件において安定である。 光、空気(酸素)により徐々に酸化され着色する。 |
| 危険有害反応可能性 | ： 酸化剤と混触すると激しく反応することがある。 |
| 避けるべき条件 | ： 日光、光、高温、日光、裸火、スパーク、その他発火源 |
| 混触危険物質 | ： 強酸化剤（硝酸塩、塩素酸塩、過酸化物、過塩素酸塩など） |
| 危険有害な分解生成物 | ： 一酸化炭素、二酸化炭素 |

11. 有害性情報

| | |
|----------------|--|
| 急性毒性 | ： 経口 ラット LD50 = 25g/kg 区分に該当しない。 経皮 モルモット LD50 > 3000mg/kg 区分に該当しない。 吸入（蒸気） 分類できない。 吸入（ミスト） 分類できない。 |
| 皮膚刺激性/刺激性 | ： 区分に該当しない。 皮膚に付着しても刺激性は低いので、区分に該当しないとした。 |
| 眼に対する重篤な損傷/刺激性 | ： 区分に該当しない。 眼に入っても刺激性は低いので、区分に該当しないとした。 |
| 呼吸器感受性又は皮膚感受性 | ： 分類できない。 |
| 生殖細胞変異原性 | ： 分類できない。 |
| 発がん性 | ： 知見データがなく、産衛学会やIARC、ACGIH、NTP、EPA、OHSAの国際 |

- 生殖毒性 : 評価機関の報告がないため、分類できない。
- 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 分類できない。
- 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : 分類できない。
- 誤えん有害性 : 分類できない。

12. 環境影響情報

- 生態毒性
 - 水生環境有害性 短期(急性) : 分類できない。
ただし、油の成分ため大量に放出すると環境に有害である。
 - 水生環境有害性 長期(慢性) : 分類できない。
天然脂肪酸のため生分解性(微生物による分解)は良好である。
- 残留性・分解性 : データなし。良分解性
- 生物蓄積性 : データなし
- 土壌中の移動性 : データなし
- オゾン層への有害性 : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。
都道府県知事などの許可(収集運搬業許可、処分業許可)を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を交付して廃棄物処理を委託する。
廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。
(参考)(1)燃焼法
可燃性の溶剤等と共に噴霧するか、又はケイソウ土、木粉(おが屑)等に吸収させて、アフターバーナー及びスクラパー付き焼却炉の火室で焼却する。
(2)活性汚泥法
生分解性があるので、低濃度の廃水は活性汚泥処理が可能である。
- 汚染容器及び包装 : 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。
空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

- 国内規制(適用法令)
 - 陸上規制 : 消防法、道路法の規定に従う。
 - 海上規制 : 特段の規制なし
 - 航空規制 : 特段の規制なし
- 国連番号 : 非該当
- 国連分類 : 非該当
- 品名 : 非該当
- 海洋汚染物質 : 非該当
- MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類 : Y(オレイン酸)
- 特別の安全対策 : 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
重量物を上積みしない。
必要に応じ移送時にイエローカードを運搬人に保持させる。

15. 適用法令

- 労働安全衛生法 : 非該当
- 毒物及び劇物取締法 : 非該当
- 消防法 : 危険物第4類引火性液体 第三石油類 非水溶性 指定数量2000L、危険等級
- 化学物質排出管理促進法(PRTR法) : 非該当〔2023年(R5年)4月1日施行にも非該当〕
- 船舶安全法 : 非該当
- 航空法 : 非該当
- 海洋汚染防止法 : 有害液体物質、Y類物質「オレイン酸」
- 水質汚濁防止法 : 生活環境項目(施行令第三条第一項)

「生物化学的酸素要求量及び化学的酸素要求量」
 【排水基準】160mg/L 以下（日間平均 120mg/L 以下）
 （注）排水基準に別途、条例等による上乗せ基準がある場合は
 それに従うこと。

輸出貿易管理令：キャッチオール規制（別表第1の16項）

第29類 有機化学品

HSコード：2916.15

・輸出統計番号（2023年4月版）：2916.15-000

「不飽和非環式モノカルボン酸及び環式モノカルボン酸並びにこれらの酸無水物、酸ハロゲン化物、酸過酸化物及び過酸並びにこれらのハロゲン化誘導体、スルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体

- 不飽和非環式モノカルボン酸並びにその酸無水物、酸ハロゲン化物、酸過酸化物及び過酸並びにこれらの誘導体：オレイン酸、リノール酸及びリノレン酸並びにこれらの塩及びエステル」

・輸入統計番号（2023年4月1日版）：2916.15-000

「不飽和非環式モノカルボン酸及び環式モノカルボン酸並びにこれらの酸無水物、酸ハロゲン化物、酸過酸化物及び過酸並びにこれらのハロゲン化誘導体、スルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体

- 不飽和非環式モノカルボン酸並びにその酸無水物、酸ハロゲン化物、酸過酸化物及び過酸並びにこれらの誘導体：オレイン酸、リノール酸及びリノレン酸並びにこれらの塩及びエステル」

16. その他の情報

（注）本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献：

| | |
|---|----------------------------|
| 化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ | 化学工業日報社 |
| 労働安全衛生法MSDS対象物質全データ | 化学工業日報社(2007) |
| 化学物質の危険・有害便覧 | 中央労働災害防止協会編 |
| 化学大辞典 | 共同出版 |
| 安衛法化学物質 | 化学工業日報社 |
| 産業中毒便覧(増補版) | 医歯薬出版 |
| 化学物質安全性データブック | オーム社 |
| 公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編) | 三共出版 |
| 化学物質の危険・有害性便覧 | 労働省安全衛生部監修 |
| Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH CD-ROM | |
| GHS分類結果データベース | nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP |
| GHSモデルMSDS情報 | 中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP |

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。